

北海道乳牛市場の初妊牛価格の推移

おかやま酪農業協同組合

経済部 流通課 井上 哲雄

1) はじめに

平成22年度は3年ぶりの生乳計画生産を避けられない状況下に於いて、宮崎県で発生した口蹄疫、夏の記録的な猛暑など全国的に大きな衝撃を与え、北海道の初妊牛価格は暑熱事故などによる更新需要によって、昨年に引き続き依然高止まりで推移致しました。

2) 平成22年初妊牛市場状況

前半の市場価格は、前年並みの価格で推移7月以降夏分娩中心の出回りのため、500千円を下回り弱含みから保合で推移、11月は猛暑からの更新需要が活発化し、12月も春産みが出始めたことにより強含みの取引でした。出場頭数は昨年に比較し4,293頭増(116%)取引率は(78.8%)1割近く下回り、販売者の強気な姿勢が伺えます。

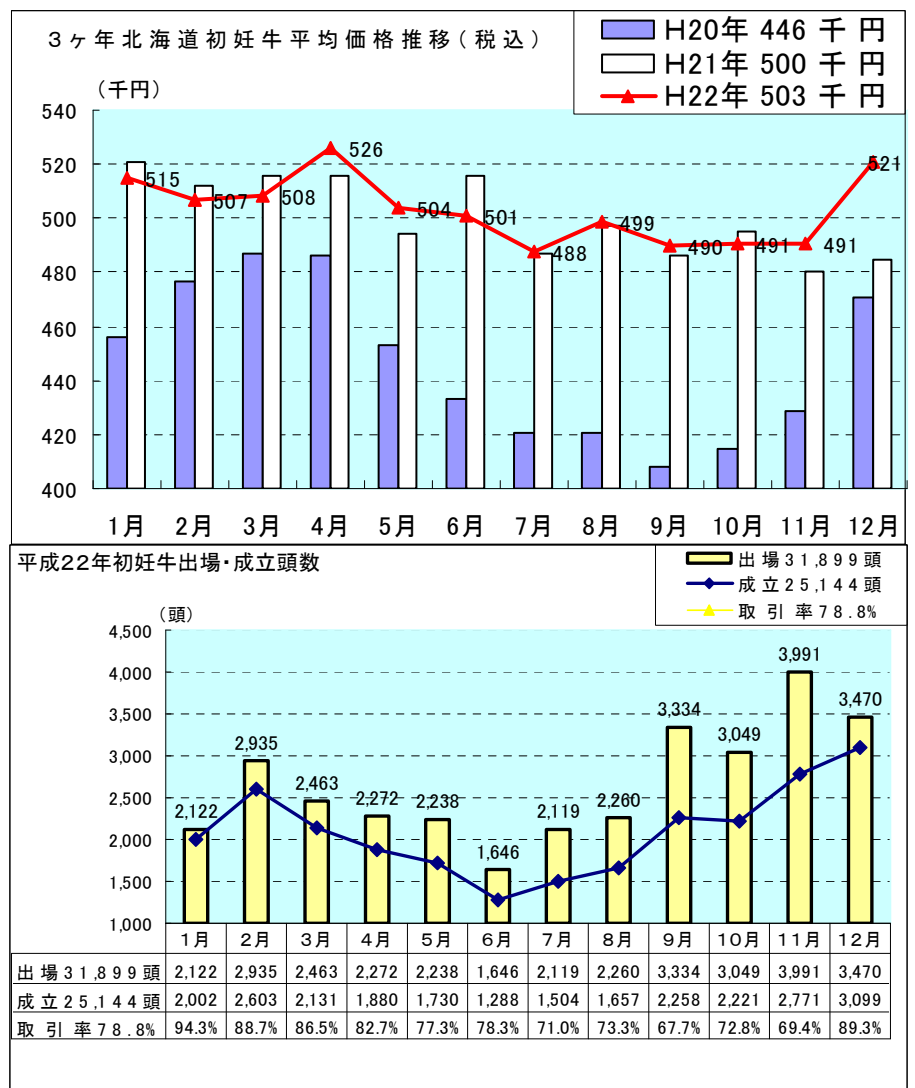
3) F1・ホル腹の平均価格

釧路市場に於けるF1・ホル腹価格差は下記の表の通り50千円前後の価格差です。

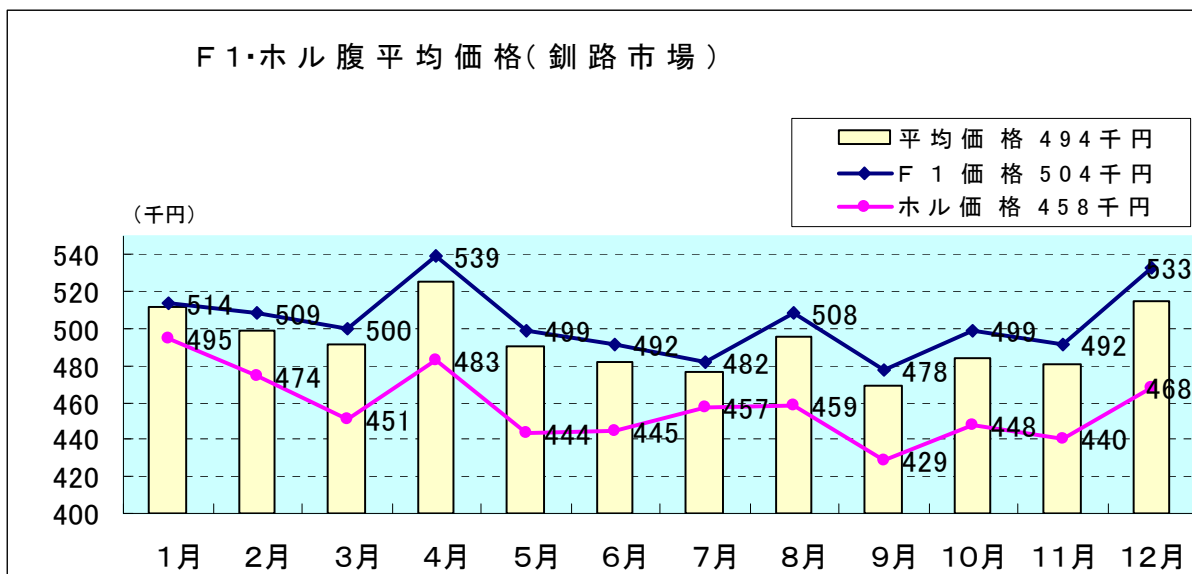
平成22年釧路市場年間出場頭数3,324頭の内訳はF1腹2,318頭(73%)ホル腹906頭(27%)です。

4) 今後の動き

1月の市場は、昨夏の猛暑による分娩時期のズレが懸念され春産みの資源の減少が見込まれ、通常的需求に加え次年度生乳生産基盤の確保に向け府県の導入意欲が活発化し強含みの価格で、今年前半に於いて堅調な価格推移が予測されます。



F1・ホル腹平均価格(釧路市場)



1月市場平均価格(22年:23年)

